

英語学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
英語学概論	英語統語論入門Ⅰ	2	島 越郎	3	金曜1限
英語学概論	英語統語論入門Ⅱ	2	島 越郎	4	金曜1限
英語学基礎講読	英語学入門Ⅰ	2	中村 太一	3	火曜4限
英語学基礎講読	英語学入門Ⅱ	2	中村 太一	4	火曜4限
英語学各論	英語音声学入門	2	中村 嘉菜子	6	火曜2限
英語解析学各論	英語学の諸問題研究Ⅰ	2	島 越郎	5	水曜2限
英語学講読	形態論入門Ⅰ	2	島 越郎	5	木曜2限
英語学講読	形態論入門Ⅱ	2	島 越郎	6	木曜2限
英語学演習	生成文法による英語分析 Ⅰ	2	中村 太一	5	水曜4限
英語学演習	英語学の諸問題研究Ⅱ	2	島 越郎	6	水曜2限
英語学演習	生成文法による英語分析 Ⅱ	2	中村 太一	6	水曜4限

科目名：英語学概論

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島 越郎

コード：LB35101, **科目ナンバリング：**LHM-LIN201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語統語論入門 I

2・授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史的変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

- 3. 学習の到達目標：**1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
3) 英語の歴史的変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：導入
- 第2回：英語の普遍性と特殊性
- 第3回：現代言語学における3つの分野：音韻論 意味論 統語論
- 第4回：英語音声の基本的特徴
- 第5回：英語の綴り字と発音
- 第6回：英語のリズムとイントネーション
- 第7回：文をつくる規則：句構造規則
- 第8回：句構造規則と文法
- 第9回：構成素について
- 第10回：樹形図と構造関係
- 第11回：構造関係に基づく文法原理
- 第12回：文、樹形図、文法原理の関係
- 第13回：品詞と歴史的変化
- 第14回：語彙と意味の歴史的変化
- 第15回：まとめと期末試験

5. 成績評価方法：副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

6. 教科書および参考書：毎回、講義内容に関するプリントをClassroomを通じて配布する。

参考書

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

7. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学概論

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島 越郎

コード：LB45101, **科目ナンバリング：**LHM-LIN201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語統語論入門 II

2・授業の目的と概要：英語の音声と文法に関する基本的現象が現代言語学の観点からどのように分析されるのを解説し、英語学における基本概念や論証の仕方を理解してもらう。また、英語の歴史の変遷や他の言語との違いを解説することにより、英語という言語の普遍性と特殊性を理解してもらう。

- 3. 学習の到達目標：**1) 英語の音声の基本的特徴を理解する。
2) 英語の文法の基本的特徴を理解する。
3) 英語の歴史の変遷と他の言語との共通点・相違点を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：導入
- 第2回：単語の音声・意味情報を記載するレキシコン
- 第3回：音韻・意味素性、主要部、句について
- 第4回：動詞と目的語の語順：音韻的要因と歴史的变化
- 第5回：動詞と修飾語の語順：音韻的要因と歴史的变化
- 第6回：複文の構造（1）：補文標識の役割
- 第7回：複文の構造（2）：定形節と非定形節の違い
- 第8回：複文構造の歴史的变化
- 第9回：発音されない代名詞と歴史的变化
- 第10回：名詞句の構造と歴史的变化
- 第11回：句構造規則から X バージョン理論へ
- 第12回：Wh 疑問文における移動操作
- 第13回：Wh 疑問文の音韻的特徴と歴史的变化
- 第14回：英語とその他の言語に見られる Wh 疑問文の共通点・相違点
- 第15回：まとめと期末試験

5. 成績評価方法：副読本の内容確認テストと期末テストの合計点

6. 教科書および参考書：毎回、講義内容に関するプリントを配布する。

参考書

服部範子著『入門英語音声学』研究社

堀田隆一著『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社

7. 授業時間外学習：講義内容の十分な復習に心がけること。

副読本の内容を計画的に自己学習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：英語学基礎講読

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：中村 太一

コード：LB32403, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：英語学入門 I

2・授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、英語の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な概念の理解を目指す。

3. 学習の到達目標：①英語学の思考法や研究方法論を理解する
②正確に英文を読む力を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当学生による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは次の通りである。

第1回：ガイダンス

第2回：導入

第3回：句構造とその構成要素 (1)：句構造

第4回：句構造とその構成要素 (2)：X' 理論

第5回：動詞句

第6回：名詞句

第7回：節 (1)：基本構造

第8回：節 (2)：長距離依存関係

第9回：節 (3)：省略

第10回：形容詞句

第11回：前置詞句

第12回：等位接続

第13回：句構造の特性①：二分木構造

第14回：句構造の特性②：内心性

第15回：まとめとディスカッション

5. 成績評価方法：授業における発表とディスカッションへの参加 (40%)
期末レポート (60%)

6. 教科書および参考書：テキスト：Borsely, Robert D. (2020) “Phrase Structure,” in The Oxford Handbook of English Grammar, ed. by Bas Aarts, Jill Bowie and Gergana Popova, pp. 301-334, Oxford University Press.

7. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題点や不明な点を整理する (2 時間)。授業後は、授業内で用いた資料等を参考に、授業内容を確認しておくこと (2 時間)。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学基礎講読

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：中村 太一

コード：LB42405, **科目ナンバリング：**LHM-LIN207J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語学入門Ⅱ

2・授業の目的と概要：英語学関連の英語文献の講読を通して、英語の正確な読解法を学ぶとともに、英語学の基本的な概念の理解を目指す。

3. 学習の到達目標：①英語学の思考法や研究方法論を理解する
②正確に英文を読む力を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は担当学生による講読発表とディスカッションから構成される。内容とスケジュールは次の通りである。

第1回：ガイダンス

第2回：言語の普遍性

第3回：生得性仮説

第4回：Principle C

第5回：Principle C in Child Language (1): Declarative Sentences and Cleft Sentences

第6回：Principle C in Child Language (2): Principle C in Italian

第7回：Principle C in Child Language (3): Crossover Questions

第8回：Principle C in Child Language (4): Discourse Sequences

第9回：言語の多様性

第10回：The “Neglect” Period of Aspects (1): The Discovery of the Vastness and Richness of Syntax

第11回：The “Neglect” Period of Aspects (2): Other features

第12回：The “Limiting” Period of LGB (1): Principles of UG

第13回：The “Limiting” Period of LGB (2): Parameters of UG

第14回：The “Denying” Phase of The Minimalist Program

第15回：まとめとディスカッション

5. 成績評価方法：授業における発表とディスカッションへの参加（40%）
期末レポート（60%）

6. 教科書および参考書：テキスト：

Crain, Stephen and Rosalind Thornton (2021) “Universal Grammar and Language Acquisition,” in A Companion to Chomsky, ed. by Nicholas Allot, Terje Lohndal, and Georges Rey, pp. 348-363, Wiley-Blackwell.

Mark, Baker (2021) “On Chomsky’s Legacy in the

7. 授業時間外学習：事前に該当箇所を予習し、問題点や不明な点を整理する（2時間）。授業後は、授業内で用いた資料等を参考に、授業内容を確認しておくこと（2時間）。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

9. その他：

科目名：英語学各論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：中村 嘉菜子

コード：LB62205, **科目ナンバリング：**LHM-LIN301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語音声学入門

2・授業の目的と概要：この授業で受講生は、音声学の基礎を学ぶ。主に、英語と日本語の音声の特徴を観察、分析することで、音声学の観点から英語の発音についてより理解を深める。さらに、Praat などを用いて自分の音声を録音したり分析したりすることで、音声学の研究手法を体験し、音声を対象とした研究の目的と意義を理解する。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 音声学の基礎的な考え方や分析方法について理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。
(2) 英語の音声に見られる特徴や、音の分類について理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。
(3) 日本語と英語の音声の違いと共通点について理解し、具体例を挙げて説明できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業内容

本授業は、担当講師による講義と、受講者参加型の活動で構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。各回における教科書の範囲については授業内で指示する。なお、受講生の理解度や興味にもとづいて内容を変更することある。

1. 授業内容の説明、受講生による自己紹介、発表担当箇所の割振り
2. 第1章 1回目 音声学での音の区切り方、調音（声帯・軟口蓋の役割）
3. 第1章 2回目 VPM ラベル
4. 第2章 1回目 英語の子音群
5. 第2章 2回目 音素と異音
6. 第3章 1回目 つづりと発音
7. 第3章 2回目 音節と強勢 1
8. 第3章 3回目 音節と強勢 2
9. 第4章 イントネーション核の置き方、発音練習
10. 第5章 英語のリズムとフット、発音練習
11. Praat の使い方
12. Praat 実技 1
13. Praat 実技 2
14. Praat 実技 3
15. 総括、レポート発表

- 5. 成績評価方法：**1. 授業参加 30%
2. 授業内発表 20%
3. 期末レポートと発表 50 %

6. 教科書および参考書：教科書：入門英語音声学 服部範子著 研究社 2021 年

7. 授業時間外学習：教科書の該当範囲を予習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業内で音声分析用ソフトウェアをダウンロードする。

科目名：英語解析学各論

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島 越郎、中村 太一

コード：LB53202, **科目ナンバリング：**LHM-LIN302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 I

2・授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

3. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 15) Summary

5. 成績評価方法：期末レポート

6. 教科書および参考書：取り上げる論文はクラスルームで前もって通知する。

7. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：英語学講読

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：島 越郎

コード：LB54207, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：形態論入門 I

2・授業の目的と概要：英語やその他の言語に見られる単語の基本的な形態現象を形態論の観点からどのように分析されるのかを解説する。

3. 学習の到達目標：1) 単語の基本的な形態現象を理解する。

2) 形態論の基本概念を理解する。

3) 形態論の基本的分析法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction
2. Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (1)
3. Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (2)
4. Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (3)
5. Words and Sentences: The Interface between Morphology and Syntax (4)
6. Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (1)
7. Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (2)
8. Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (3)
9. Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (4)
10. Sounds and Shapes: The Interface between Morphology and Phonology (5)
11. Theoretical Challenges (1): The Nature of Morphological Rules
12. Theoretical Challenges (2): Lexical Integrity
13. Theoretical Challenges (3): Constrains on Affix Ordering
14. Theoretical Challenges (4): Bracketing Paradoxes
15. Theoretical Challenges (5): The Nature of Affixal Polysemy

5. 成績評価方法：学期末レポートに基づく。

6. 教科書および参考書：初回に、講義内容に関するプリントをクラスルームで配布する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業の復習をしっかりとやること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学講読

曜日・講時：木曜2限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：島 越郎

コード：LB64205, 科目ナンバリング：LHM-LIN309J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：形態論入門 II

2・授業の目的と概要：英語やその他の言語に見られる単語の基本的な形態現象を形態論の観点からどのように分析されるのかを解説する。

3. 学習の到達目標：1) 単語の基本的な形態現象を理解する。

2) 形態論の基本概念を理解する。

3) 形態論の基本的分析法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction
2. Overview of Compound Types (1)
3. Overview of Compound Types (2)
4. Root Compounds (1)
5. Root Compounds (2)
6. English Synthetic Compounds (1)
7. English Synthetic Compounds (2)
8. English Synthetic Compounds (3)
9. English Synthetic Compounds (4)
10. Lexical Semantic Approach to Compounding (1)
11. Lexical Semantic Approach to Compounding (2)
12. Lexical Semantic Approach to Compounding (3)
13. Lexical Semantic Approach to Compounding (4)
15. Lexical Semantic Approach to Compounding (5)

5. 成績評価方法：学期末レポートに基づく。

6. 教科書および参考書：講義内容に関するプリントをClassroomを使って配布する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業の復習をしっかりとやること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：英語学演習

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：中村 太一

コード：LB53409, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：生成文法による英語分析 I

2・授業の目的と概要：生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

3. 学習の到達目標：①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。

②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。

③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、担当者による口頭発表と参加者によるディスカッションから構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 Grammar (1): Traditional Grammar (Oral report and discussion)
- 3 Grammar (2): Universals and Language Acquisition (Oral report and discussion)
- 4 Grammar (3): Parameters and Parameter Setting (Oral report and discussion)
- 5 Words (1): Lexical Categories and Functional Categories (Oral report and discussion)
- 6 Words (2): Determiners, Quantifiers, and Auxiliaries (Oral report and discussion)
- 7 Words (3): Categorization Problems and Grammatical Features (Oral report and discussion)
- 8 Structure (1): Phrases, Clauses, and Specifiers (Oral report and discussion)
- 9 Structure (2): Projections and Testing Structures (Oral report and discussion)
- 10 Structure (3): Structural Relations and Word Order (Oral Report and discussion)
- 11 Null Constituents (1): Null T in Indicative Clauses (Oral report and discussion)
- 12 Null Constituents (2): Null T and Null C in Finite Clauses (Oral report and discussion)
- 13 Null Constituents (3): Null C in Infinitive Clauses and Defective Clauses (Oral report and discussion)
- 14 Null Constituents (4): Null Heads in Nominals (Oral report and discussion)
- 15 まとめとディスカッション

5. 成績評価方法：授業における発表および討論参加 (40%)

期末レポート (60%)

6. 教科書および参考書：テキスト: Radford, Andrew (2016) Analysing English Sentences, 2nd edition, Cambridge University Press.

参考書: 原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

Andre Radford (著)、金子義明・島越郎 (監訳)『英語構文を分析する (上)』開拓社

7. 授業時間外学習：授業に臨む前に、教科書の該当箇所を予習しておくこと (2 時間)。授業後は、授業内で用いた資料等を参考に、授業内容を確認しておくこと (2 時間)。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。

科目名：英語学演習

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島 越郎、中村 太一

コード：LB63207, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 II

2・授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、卒業論文作成の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

- 1) 最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。
- 2) 討論者がコメントを加える。
- 3) 授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

3. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

- ②研究論文の実践的作成法が身に付く
- ③効果的プレゼンテーション力が身に付く

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory
- 15) Summary

5. 成績評価方法：期末レポート

6. 教科書および参考書：取り上げる論文はクラスルームで前もって通知する。

7. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：英語学演習

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：中村 太一

コード：LB63405, **科目ナンバリング：**LHM-LIN310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：生成文法による英語分析Ⅱ

2・授業の目的と概要：生成文法の最新の枠組みである極小主義プログラムによる英語分析のテキストを用い、英語の種々の構文がどのような概念により分析されるのかを学ぶ。授業は担当者によるオーラル・レポートと、ディスカッションによってすすめる。

3. 学習の到達目標：①生成文法理論による英語分析の概要を把握する。

②比較的多量の英文を正確に読みこなせるようになる。

③プレゼンテーションの実践的手順を把握する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、担当者による口頭発表と参加者によるディスカッションで構成される。授業内容とスケジュールは以下の通りである。

1 ガイダンス

2 Head Movement (1): Auxiliary Inversion and CP Recursion (Oral report and discussion)

3 Head Movement (2): Null Operators and V-to-T Movement (Oral report and discussion)

4 Head Movement (3): Auxiliary Raising and Negation (Oral report and discussion)

5 Head Movement (4): Do-support (Oral Report and discussion)

6 Wh-Movement (1): Wh-Movement and Driving Wh-Movement (Oral report and discussion)

7 Wh-Movement (2): Subject Questions and Pied-Piping (Oral report and discussion)

8 Wh-Movement (3): Wh-Movement as Copying (Oral report and discussion)

9 Wh-Movement (4): Constraint on Movement (Oral report and discussion)

10 A-bar Movement (1): Wh-exclamatives and Relative Clauses (Oral report and discussion)

11 A-bar Movement (2): Two Movement Accounts of Restrictive Relative Clauses (Oral report and discussion)

12 A-bar Movement (3): Refining the Antecedent Raising Analysis (Oral report and discussion)

13 A-bar Movement (4): Two Sources for Restrictive Relative Clauses (Oral report and discussion)

14 A-bar Movement (5): Other A-bar Movement Constructions (Oral report and discussion)

15 まとめとディスカッション

5. 成績評価方法：授業における発表および討論参加（40%）

期末レポート（60%）

6. 教科書および参考書：テキスト：Andrew Radford (2016) *Analysing English Sentences*, 2nd edition, Cambridge UP.

参考書：原口庄輔・中村捷・金子義明（編）『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

Andrew Radford（著）、金子義明・島越郎（監訳）『英語構文を分析する（下）』開拓社

7. 授業時間外学習：授業に臨む前に、教科書の該当箇所を予習しておくこと（2時間）。授業後は、授業内で用いた資料等を参考に、授業内容を確認しておくこと（2時間）。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

前年度までに英語学概論を履修済みであることが望ましい。